

京都府自閉症協会

入会のしおり

自閉症スペクトラムの人が誇りをもって暮らせる社会を
当事者と家族が孤立せず絆を結ぶために



京都府自閉症協会

〒602-8143

京都府京都市上京区堀川通丸太町下る中之町519番地 京都社会福祉会館2階

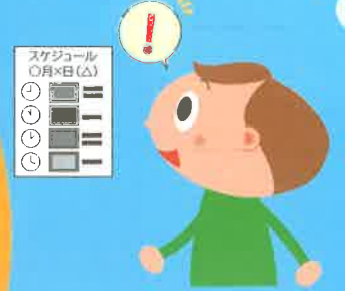
TEL:(075)813-5156 FAX:(075)813-5157 URL:<http://as-kyoto.com/>



自閉症スペクトラムをご存知ですか？

下のような特徴を持つ人は、典型的な特徴を示す人（従来「自閉症」と言われていた人）から非典型的でわかりにくい症状を持つ人まで、連続して幅広く存在することがわかってきました。そして、このような広い範囲を含めて「自閉症スペクトラム」と呼んでいます。

自閉症スペクトラムは、先天的または生後早期からの脳機能の障害または“違い”によっておこる「発達障害」の1つであり、「心の病気」「親の育て方の問題」ではありません。自閉症スペクトラムがなくなることはありませんが特性をよく理解して適切な支援や教育を行うことで、社会の中でできるだけ自立して楽しく生活することができます。



対人関係の特性

他の人の気持ちやものの見方がわかりにくく、相互的な関係を築くことが困難です。

呼びかけられてもふり向かない、視線が合わない、まわりの人と興味を共有することが少ないなどの特徴がみられることがあります。人とかかわることに関心がある場合でも、相手に合わせる事が少なく、マイペースで一方的なかかわりになりがちです。社会のルールや常識がよくわからなかったりします。友人と対等な人間関係を築くことが難しく、孤立しがちです。一方で、周囲の人に惑わされない意志の強さや独創的な発想ができることなどは長所です。

コミュニケーションの特性

ことばを話さなかったり、ことばがあってもオウム返しなど独特な話し方をしたりします。言葉をかなり話せる人もいますが、会話をうまく続けることができません。ことばを字義通りに理解し、皮肉や冗談がわかりにくいこともあります。身振りや表情などの方法を用いたコミュニケーションもあまり使われなかったり、不自然だったりします。

一方、視覚的情報の理解は得意であったり、語彙が豊富、言葉の正確性を求める気持ちの強さなどは自閉症スペクトラムの人にみられる強みです。

アンバランスな知的能力

自閉症の人の知能は様々ですが、IQ(知能指数)の数値にかかわらず、知的機能にはアンバランスがあることが特徴です。視覚認知や記憶力が強く、一部には絵画、手芸、計算、ジグソーパズル、音楽などが大得意な人もいます。一方多くの場合、概念や言葉の意味理解は苦手です。

想像力の特性とこだわり

目の前にないことを頭の中で想像することが苦手です。そのため、幼児期のごっこ遊びが少なかったり、様々なこだわりが見られます。

手をひらひらさせたり、ひもを振ったり、くるくる回ったり、上半身を前後にゆすったりするような反復的動作をくり返すことがあります。また、ミニカーやブロックなどを一列に並べたり、水道の水を指先に受け続けることに没頭したり、同じ事をくり返すこともあります。

物を置く位置、道順、生活の日課など、決まったやり方にこだわり、変化に対して不安や抵抗を示したり、予測と違うと混乱したり不安に感じたりします。決まったことは正確にきちんとできるのは長所だと言えます。

見通しが立っていると最後までやりきろうとする特性もあります。また、興味は偏りがちですが、興味のあることには没頭し、電車や天気など特定のことがらについて知識が豊富で「○○博士」と呼ばれることもあります。

- 典型的な自閉症の人は1/500人、障害の軽い人も含めると1/100人以上いると言われていています。
- 知的発達に遅れのない自閉症スペクトラムの人を「高機能自閉症」や「アスペルガー症候群」と呼ぶことがあります。
- これらの特徴の現われ方は、人によって様々です。また、同じ人でも年齢によって変化していきます。

アンバランスな感覚

聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚などに敏感さと鈍さが混在しています。たとえば、身体に触られることに過敏に反応して嫌う一方で、けがの痛みには平気で、むしろ鈍感に思われることがあります。聴覚でも赤ちゃんの泣き声、テレビのCMなど日常的な音に苦痛を感じて泣き叫ぶかと思うと、大きな音がしても聞いてないようにみえることもあります。また特定の感覚刺激をととても好む場合もあります。

日本自閉症協会とは

日本自閉症協会は、自閉症についての研究・調査、自閉症児・者の療育、教育、福祉、労働などの充実をめざして、多くの親たちが専門家と協力して結成した団体です。

1968年(昭和43年)に、自閉症児を持つ親たちが「自閉症児・者の会全国協議会」を結成しましたが、1989年(平成元年)に専門家も参加して、「社団法人日本自閉症協会」として新発足しました。「京都府自閉症協会」は、1969年(昭和44年)11月「京都自閉症児を守る会」として発足し、平成元年の全国協の社団法人化により、「社団法人日本自閉症協会京都府支部」として活動を続けてきましたが、2008年(平成20年)4月の協会の組織改革に伴い、一般社団法人 日本自閉症協会の加盟団体となっています。

京都府自閉症協会では こんな活動をしています



機関誌の発行

機関紙「BEAM」を年3回発行し、活動報告、自閉症に関するいろいろな広報、親の体験談、行事案内などを載せています。日本自閉症協会機関紙「いとご」(年6回)、「かがやき」(研究誌・年1回)なども京都府自閉症協会をとおして会員に発送しています。

講演会・研究会

親や自閉症児者に関わる多くの人々を対象にした講演会やセミナー、研修会を実施しています。

「自閉症セミナー」「高機能自閉症・アスペルガー症候群セミナー」「PECSレベル1ワークショップ」などを実施し、自閉症に関する最新の療育・援助方法などについての情報を伝えています。



情報の収集・発信

日本自閉症協会の中で最も早く独自にインターネットのホームページ(ASK)を開き、自閉症に関する多方面の情報を提供しています。また、正会員同士の情報交換のためのメーリングリストを運営しています。

ホームページのURL:<http://as-kyoto.com/>

学習会

幼児学齢部、青年成人部で講師を招いてTEACCHプログラムについて学んだり、福祉制度・施策の学習や施設見学会等を行っています。また、高機能・アスペルガー一部も学習会を行っています。

レクリエーション

幼児・学齢部では、クリスマス会やハイキング等の野外活動を実施しています。青年成人部では、音楽活動や野外活動等を実施しています。また、きょうだい部でも活動を行っています。

どのレクリエーションもボランティアの協力を得て、楽しく遊べる場となっています。



会員同士の交流

会員同士の自由な意見交換や、悩みを話し合う場として、相談交流会を年数回実施しています。専門部の先生も助言者として参加されます。

その他に、同じ悩みを持つ親たちで話し合う場として『母親ほっとタイム』(小学生以下対象)、『ほのぼのタイム』・『リフレッシュタイム』・『ほっこりタイム』(高機能・アスペルガー一部対象)などを設けています。きょうだい同士の交流や父親同士の交流も行っています。

行政への働きかけ

京都府・市の障害福祉計画等に基づいた委員会や協議会などに、発達障害者を代表する団体として参画し、施策に意見を反映させています。

府教委や市教委との懇談会には発達障害の関連団体とともに出席しています。

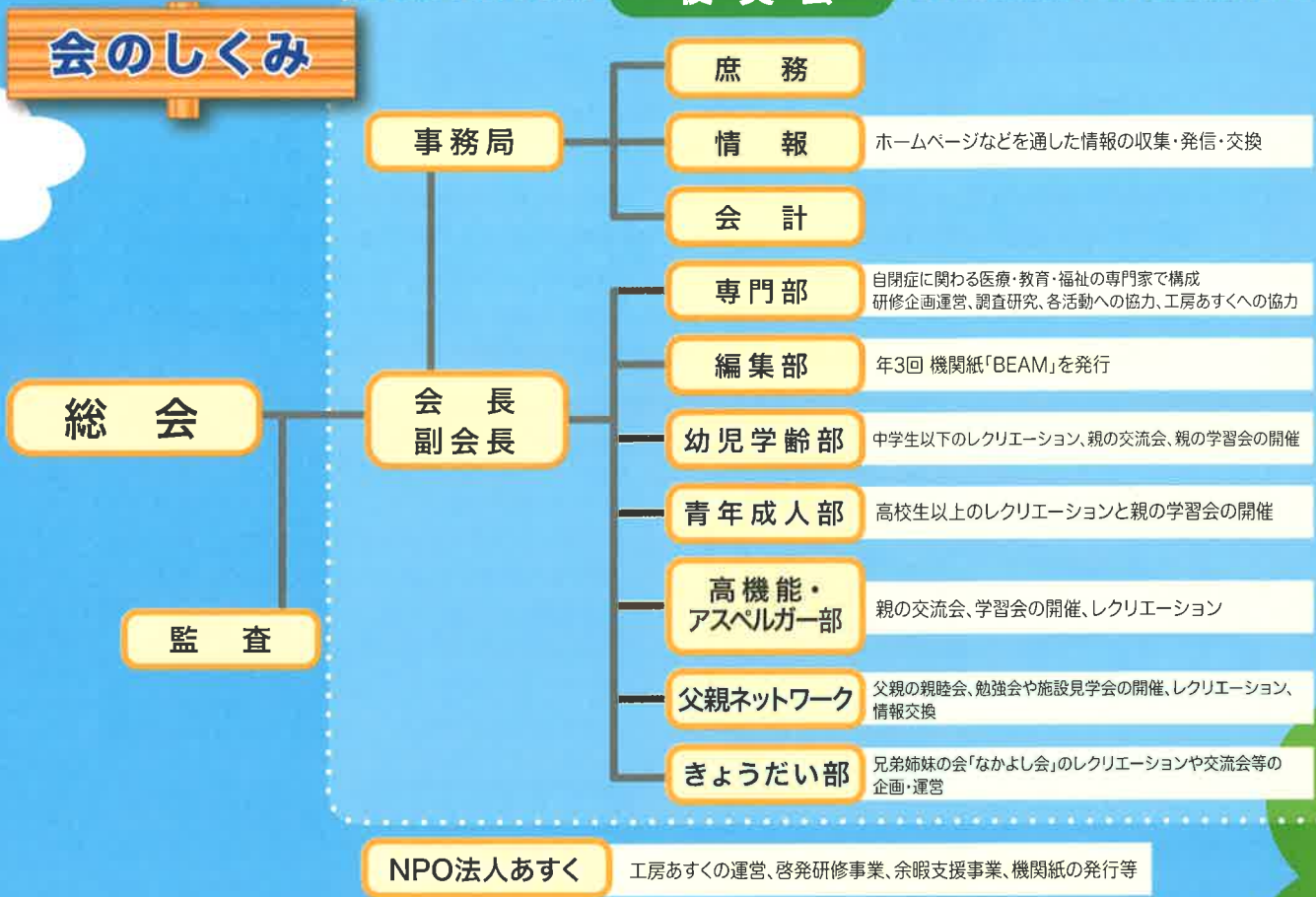
啓発活動

一般の人たちに自閉症を理解していただくために、啓発講演会や世界自閉症啓発デーに伴う京都タワーのライトアップイベントや啓発ウォーク等を他の発達障害者団体や京都府・市とともに開催するなど、さまざまな活動を行っています。



会のしくみ

役員会



入会のご案内

会員

この会は、正会員と賛助会員によって構成されています。

- 正会員：本人またはその家族、専門部会員
- 賛助会員：正会員に該当しないが趣旨に賛同する方

◎会員になるとこんなサービスがあります！

- ・京都府自閉症協会機関紙「BEAM」年3回の購読
- ・日本自閉症協会機関紙「いとしご」年6回、研究誌「かがやき」年1回の購読
- ・京都府自閉症協会主催の講演会・セミナーなどの参加費割引

会費

- 正会員(本人またはその家族)……………年額12,000円(月額1,000円)
日本自閉症協会会費、他2,200円を含む
- 賛助会員 (個人)……………年額 3,000円 日本自閉症協会会費1,500円を含む
(団体)……………年額10,000円 日本自閉症協会会費5,000円を含む

会費は郵便振替、または総会やセミナー等の開催時、または事務所にてお支払いください。

振込先：01000-6-40300 日本自閉症協会京都府支部

入会申し込み

入会申込用紙に必要事項をご記入の上、下記まで郵送またはFAXでお送りください。

入会申し込み・お問い合わせ先

事務所 京都府自閉症協会
〒602-8143 京都府京都市上京区堀川通丸太町下る中之町519番地
京都社会福祉会館2階

TEL:(075)813-5156 E-mail: askyoto@iris.eonet.ne.jp
FAX:(075)813-5157 URL:http://as-kyoto.com/